

1. 令和元年度(2019年度)の事業報告

市民活動総合センター指定管理第4期(4年間)初年度に際し、事業方針では施設運営方針に掲げた、以下の7項目の運営方針に基づき、6分野における各事業での取組を実施した。

【運営方針】

- (1) 公平・平等・公正を基調とした運営
- (2) 「公設市民営」の推進
- (3) 施設活用の向上及び市民活動パブリシティの強化
- (4) 社会関係資本の再構築と受信力の向上
- (5) 災害ボランティアセンター及び他機関連携の推進
- (6) G(ガバナンス)・C(コンプライアンス)・D(ディスクロージャー)の推進
- (7) 第三者評価・支援機関の設置と提言

<各事業分野別主要事業内容>

1. 情報収集・提供事業

- ◆情報発信サイトである「しみセンホームページ」や「情報共有ポータルサイト」のコンテンツの内容の見直しをはかり、利用者満足度向上に向けて、簡便に情報提供を行えるようサイト編成を実施した。中でもインフォメーションサービス規約改定に合わせ、既登録団体情報の適正化確認(有効登録団体選定)を実施した。
- ◆情報コーナースペース(旧図書コーナー)でのカウンターセンサーを新たに設置し、エレベーター前からの入場口(来館導線)を広げた。同スペースにおいて、団体の情報発信やグループミーティングの『場』として運用を開始した。また、活動紹介機材としてTVモニターを新規に設置した。

2. 相談事業

- ◆多様化する相談内容(団体の解散、NPO法人以外の法人格等)への対応や厳密な記録内容を残すために新しい相談記録フォームを作成して運用した。また、相談記録シート内に「コンサルティング事例」となる相談については☑項目を付加し、今後の事例集(コンサルBook)作成での素材収集となるよう構成した。
- ◆専門家相談会では、ニーズに即した枠数変更(会計一般・認定分野会計)やテーマ別(労務・登記)では日時設定開催以外に随時募集枠を設け、希望者のニーズに応じて開催した。
- ◆相談対応能力スキルアップとして職員間で勉強会を開催や所轄部署との情報共有の機会を設けた。

3. 育成事業

- ◆各種講座開催において、市民活動啓発公開講座では無関心層や潜在的関心層の市民活動への参加を促し、以下の3講座を開催した。それぞれの講座では参加者に寄付(市縁堂参加団体向け)を募り、寄付文化醸成での施策も講じた。
 - ①「お世話され上手のススメ」講師：釈徹宗氏(※前年度延期となった講座)
 - ②「クリスマス・チャリティ・コンサート」京都プラスバンド協力
 - ③「笑いを通じて社会とつながる(落語)」登壇：笑福亭學光氏他3名(※市縁堂会場内にて開催)

- ◆新設講座として、新しい切り口にて3種（①現場訪問：街はキャンパス、②組織基盤強化系講座、③接点开発講座：団体と関心層との出会い）の内容での講座を企画した。なお、②③においては、一部集客が伴わず延期・中止となった。団体にとってニーズのある講座内容ではあるが関心者へのアプローチの課題が残った。
- ◆スモールオフィス報告会運営では、同施設運営をおこなう「東山いきいき市民活動センター」と協働にて、委員の選定や各センター入居団体報告会の準備及び開催を実施した。

4. 連携・交流事業

- ◆3つのセクター(学生・企業・行政)との連携をはかる施策展開として、学生では「学生Plus+」のボランティア受入協働事業や大学ボランティアフェスタへの参画、企業では市縁堂と関連付けて「SDGs」促進策の展開、「SDGs 食プロジェクト」での審査員として参画、「地域力アップ応援フェア」でメディア(KBS 京都ラジオ)との連携構築、行政等では京都市が推進する「SDGs」活動の広報協力として総合企画室レジリエンス・SDGs 戦略室の情報拡散を「市縁堂」内で実施した。
- ◆今年度の市縁堂ではSDGs活動に取り組むNPOや市民活動団体の活動を多くの市民に向けて認識を高めると同時に活動団体への支援者として寄付を募る施策にて開催した。参加団体には学生が運営するグループが参画すると共に企業の来場を促し、市縁堂会場がSDGsをキーワードに連携の「場」として運営した。広報では関西SDGsプラットフォームと協働し、関連先の企業・大学・NPO・行政等へ開催案内を実施した。また、潜在的関心層・無関心層に向けて市民活動への意識を向けるきっかけ作りとしては公開講座(落語)を会場内にて開催した。
- ◆ボランティア・コーディネート事業では、「祇園祭ごみゼロ大作戦」や「オムロン株式会社」と連携事業の展開をはかった。
- ◆しみセンの持つリソースを活かし、市内13か所のいきいき市民活動センターの利用団体に向けて「出前講座」の提案を実施した。

5. 施設管理

- ◆ミーティングルーム利用者への利便性の高い運用方法を検討し、延長利用時間設定や複数ルームの利用方法の基準を設けて運用を実施した。
- ◆設備機器(パソコン・印刷機等)の保守・管理を徹底として、新規に機材の入替を実施した。また、館内照明として一区画をLED照明に交換した。
- ◆その他の機材(裁断機・ソーター等)については、経年劣化に伴い、部品交換にて対応するが、これまで印刷サービスとして提供してきた「大判印刷」は機材の修繕が難しく、12月末にてサービス終了とした。

6. 京都市災害ボランティアセンター運営事業

- ◆今年度は台風19号による豪雨災害被災地支援として長野市にてボランティア活動を実施した。
- ◆平時においては定期運営会議参加に加え、防災訓練(京都市、区災害ボランティアセンター)への参画やボランティア活動の研修会等にも積極的に参加した。